

年間第二十六主日（主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：マタイ 21：28 - 42

イエスは祭司長や民の長老たちに譬えを語った。父親は二人の息子に葡萄園へ入って働かないと言った。兄はいやだと答えたが、後で考え直して出かけた。弟は承知したと答えたが、出かけなかった。祭司長と民の長老たちは、兄の方は父親の望み通りにしたと言った。イエスは言われた：ヨハネが来て、義の道を示したのに、あなたたちは考え直して彼を信じようしなかった。徴税人や娼婦たちの方が、信じて、あなたたちより先に神の国に入るだろう。

（二）カテキズムの響き：（『カトリック教会のカテキズム』の番号 #535、541-545、587-591；YOUCAT #76、89、131）

ヨハネは、イエスによって罪のゆるしを得させるために、悔い改めの洗礼を述べ伝えていました。おびただしい罪人、徴税人、兵士、ファリサイ派、サドカイ派人々、娼婦たちなどがやって来て、ヨハネから洗礼を受けました。イエスもその中で洗礼を受けられました。その時、聖霊が鳩の形でイエスの上に下り、また、私の愛する子と宣言され、天からの声がします。これはイエスをイスラエルのメシア、神の御子として現す出来事でした。その後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を述べ伝えて、『時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい』といわれた。あらゆる人がキリストと一つになり、神の国に入るように招かれています。このメシア的神の国は、まず、イスラエルの民族に告げられましたが、すべての国の人を迎え入れるよう定められたものです。神の国に入るために、イエスの言葉を受け入れ、イエスのように、ご自分をすべての貧しい人々の立場に置き、こうした人たちへの積極的な愛を実践しなければなりません。なぜなら、天の国は貧しい人々と小さい人々、すなわち、謙虚な心で、これを迎える人たちのものです。イエスも罪人に回心を促し、彼らを神の国の食卓に招かれます。イエスは譬え話を通して、罪人への御父の限りない慈悲を示されました。この愛の至高の証しは、罪が許されるように、ご自分の命を犠牲されたことにあります。

司祭長や民の長老たちをはじめとする宗教的指導者は、イエス律法とエルサレムの神殿に関する教えのために、イエスに反対するだけではなく、優れた神のわざである罪の贖いにおけるイエスの役割は、彼らにとっては真のつまずきの石であったのです。イエスは自分が正しい人間だとうぬぼれているファリサイ派の人々に、「私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪びとを招いて悔い改めさせるためである。救いを必要としないと出張するものは自分自身に目をふさいでいることになる」と言明しておられます。それに、イエスは罪人に対するご自分の慈愛深い態度を神ご自分の態度と同一視されることです。さらに、罪をゆるす権能をもって、神である父と一つであると断言されることです。イエスは宗教的指導者たちに自ら行っている御父の業のゆえにご自分を信じるよう促されました。しかし、このような信じることは、神の恵みに引き寄せられて可能になります。彼らは回心できないのは、無知と不信仰による頑なな心というわけです。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#107、116 — イエスは、イスラエル民から、人々を神の国に招きます。

— 神の国に入る条件：

み国は、すでにこの地上において、キリストを信じ、回心するよう、謙虚な心でこの慈しみを受け入れる人々に属しています。

最後の祈り： すべての人を愛してくださる神よ、主キリストに結ばれて祈ります。私たちが悔い改める心を持ち続け、愛の実践によって、神の国の到来と平和を促すことができますように。